

②徳育・体育推進プログラム

技術革新の進展により、問題発見力や他者と協働して何かを成し遂げるといった力が一層重視されるようになることが予想される中、子どもたちが将来、社会の一員として活躍できるよう、さまざまな活動を通じて、若年期から精神面、身体面の充実を図ることが必要です。



高校生と小学生の交流学習

🏠 生き生き指標

●「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合

小学校6年生 45.6% ➡ **49.0%**

中学校3年生 38.9% ➡ **41.0%**

●「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合

小学校6年生 84.1% ➡ **86.0%**

中学校3年生 76.8% ➡ **80.0%**

県立高校生 65.8% ➡ **80.0%**

●「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合

(男子) 小学校5年生 72.1% ➡ **74.0%**

中学校2年生 64.3% ➡ **66.0%**

(女子) 小学校5年生 53.5% ➡ **56.0%**

中学校2年生 44.9% ➡ **47.0%**

🎯 重点施策

■ 道德教育の推進

子どもたちが自己の生き方を考え、他者とよりよく生きるため、「特別の教科 道德」を要として、学校・家庭・地域一体の取組を推進します。地域特性に根ざした学習を教育活動全体で行い、郷土愛の醸成を図ります。

■ より良い社会づくりに参画する人材の育成

子どもたちの社会貢献活動への理解と参加を促進し、人の役に立ち、感謝される体験を通して、より良い社会づくりに参画する人材の育成を図ります。地域課題の解決に当事者意識や実践力を身に付けられるよう取組を進めます。

■ 子どもたちの体力の向上

体育授業の充実、一人ひとりに応じた体力づくりに取り組み、子どもたちの体力の向上を図ります。適切な運動部活動の展開に取り組むとともに、スポーツ・武道を通じて、人間関係を築く力などを醸成します。

🎯 推進施策

- ☐ 子どもたちの健康の保持増進
- ☐ 人権教育の推進



企業と連携した商品開発



小学校での体育授業